

# 小平図書館友の会 会報 44号

ネット公開版



発行日 2020年11月15日  
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>  
連絡先 ブログ掲載のメールアドレスへ

## もくじ

小川駅西口・新しい公共施設のかたちに期待...	小平図書館友の会 剣持香世.....	1
「コロナ禍と図書館」.....	小平市中央図書館長 利光良平...	2-3
「読書サークル・小平」案内.....	小平図書館友の会 大森輝久.....	4-5
学習会報告 図書館協議会報告.....		6

## 小川駅西口・新しい公共施設のかたちに期待 小平図書館友の会 剣持香世

小川駅西口再開発に伴い、老朽化が懸念されていた小川西町公民館と図書館は新たに建設される小川駅直結の複合施設ビルに移転が決まっています。完成は令和6年度の予定ですからまだ少し先ですが、その基本計画や設計は着々と進んでいます。

計画によると複合施設ビルは27階建てで、低層階に商業施設が入り、4階と5階の一部に小平市の公共施設、6階から上が住宅となります。ビルの周辺はにぎわい広場（仮称）や駐車場などが整備され、駅に近接することからも多くの人々が交流し利便性の高い活気あふれる街になると期待されています。

公共施設が入る4階と5階は、西部出張所、生涯学習（公民館と図書館）機能の他に、市民活動支援センター、男女共同参画センターの機能が加わります。小平市のコンセプトとしては、「それらを複合化することで多世代の多様な活動が重なり合い、将来的には統合を目指していくパイロット的な施設と位置付ける。それぞれの機能は縦割りに独立したものではなく一体的な新しい施設となることを目指します」とあります。これを具体化した基本設計では、4階と5階のフロア中央は階段でつながり、各階中心部に図書館の本が並びます。その外側を読書スペースが囲み、4階はお話し室やプレイルームのスペース、ティーンズコーナー、また図書館の雑誌を読みながらコーヒーなどが飲めるカフェも併設されるようです。5階の図書スペースの外側には公民館の学習室や講座室など多目的に使える部屋が並びます。市役所西部出張所に来た人や市民活動の相談に来た人、ふらっと立ち寄った人達など多世代の多様なひとびとが交差し、活動や情報、人と人との出会いを創り出します。（詳しくは小平市のホームページをご覧ください）

どんな施設でも大切なことは使う人々が主役だということです。市は時間をかけてワークショップやヒアリングを行い、市民からの声を集めて設計に反映させたようです。今までの小平にない新しい施設様式は、安全はもちろんのこと、そこに集う人々が主体的に活動できるよう導き、新しいコミュニティを生み、たくさんの情報を提供し発信し、なお且つひとりでも楽しめる居心地のいい場所であってほしいと願います。

# コロナ禍と図書館

小平市中央図書館長 利光良平

2月末に安倍首相が新型コロナウイルス対策のために、小・中学校等の臨時休校を要請して以来、社会全体はもちろのこと、図書館においても厳しい状況が続いています。小平市の図書館も3月2日から6月8日まで休館となったほか、再開後も多くのイベントが中止となって現在に至っています。

この状況が続けば、社会的な活動へのモチベーションが低下することが懸念されますが、このような中でも、図書館友の会として活動を続ける努力や工夫をされておられますことに敬意を表します。

さて、新型コロナが感染拡大の気配を見せていた2月以降、私はこれから起こるであろう大きな状況の変化を記録しておこうと思い、図書館を中心に状況をメモで残しています。今回執筆のご依頼をいただき、この2020年に図書館で起きていることを後々振り返ることができるよう、まとめてみましたので、以下に記させていただきます。

\*\*\*

## 2月

3日には、横浜港に感染者が乗船したダイヤモンドプリンセス号が入港し、いよいよ日本でもCOVID-19と名付けられたウイルスが猛威をふるいだした。

13日になると、国内で初めて感染者の方が亡くなり、17日には小平市でも新型コロナウイルス感染症対策会議が開催され、図書館も含む窓口職員のマスク着用が義務とされた。

友の会から古本市中止の御判断をいただいたが、小平市内の行事においては最も早い中止判断であった。また、多摩地区の各図書館長が集まる東京都市町村立図書館長協議会で情報交換を行った中でも最も早い中止判断であった。

21日になると東京都がイベントの中止を打ち出してきた。小平市でも行事の開催可否について論じられるようになり、図書館でも高齢の方と子どもの接点となりうるおはなし会等の行事について、24日以降は中止とした。

27日には安倍首相が全国の小・中学校等に3月2日からの臨時休校を要請し、いよいよ休館が現実のものとなって来た。他市の図書館はどうしているのか、他の公共施設はどうしているのか情報を収集するが、誰にとっても初めての経験であり、判断をす

るのにどこも苦しんでいる。休校になって行き場を失った児童や生徒が図書館に大挙してやってきて感染が拡がるような事態になったらどうなるのか、いやこういう時だからこそ図書館を開放して学習活動の受け皿として役立つべきではないか、いろいろな考えが頭をよぎっていく。

28日には、市の新型コロナウイルス感染症対策本部が開催され、3月2日から15日までの図書館、公民館、地域センターなどの休館が決定された。

## 3月

2日からの休館が決まり、直前の1日の日曜日には各館は記録的な混雑となった。飛沫防止のビニールカーテンなどはまだ一般的になっておらず、図書館カウンターにも設置していない状況であり、感染者が出ないか大変心配であった。

12日には、月末31日までの休館延長が市の新型コロナウイルス感染症対策本部で決定された。3月に予定されていた講演会なども中止となった。

このころから一部の市において図書館の入口付近で予約済みの本を貸し出す方法で一部サービスを行うところも出てきた。情報収集に努めていく。

26日には12時から17時までで予約本の貸し出しを各図書館の入口などで行った。当面続けていく予定であったが、前日の夜に東京都知事が外出自粛要請を出したことから、27日以降は休止とせざるを得なくなった。27日には4月12日までの休館が決定された。

## 4月

予約本の貸し出しを早々に中止したことについてお叱りを受けることも多かったが、継続していた近隣市も状況の悪化から続々と休止となっていく。

7日に国が7都府県を対象に緊急事態宣言を発令した。都内新規感染者数も1日当たり100名を超えるようになってきており、緊張感が高まる。

8日には連休後の5月6日までの休館延長が決定された。保育園などの休園が増えてきて、子どもの保育のため出勤できない職員も増えてくる。また、多くの図書館職員が緊急事態宣言下で業務が急増している市の他部署への応援業務に従事することとなる。会計年度任用職員(旧嘱託職員)は在宅勤務となり、おはなし会などで配るプレゼントを作ったり、いろいろな調査や研究などを行ったりしてもらう。

**5月**

感染者数は徐々に減っていく。中旬ころから予約本の貸し出しを再開する市も出てき始める。小平市の図書館としても再開に向けて必要な感染予防対策資材の手配や窓口開設時のレイアウトや人の流れの確認を進める。

26日の市の新型コロナ感染症対策本部で6月3日からの予約本の貸し出しの再開を決める。市内小・中学校の夏季休業期間が8月1日から23日までとされ、例年と大きく異なる夏を迎えることとなる。職員も徐々に職場に戻して再開に向けた準備を本格化させる。

**6月**

3日に既予約分の本の貸し出しから段階的に再開をした。感染防止のために臨時カウンターには飛沫防止のためのビニール膜を張り、並ぶ位置を地面にテープ等で示した。

9日には新規予約の再開と書架の制限付き開放を行う。9時からの新規予約は夕方までに7000冊もの予約が入り、開始直後は接続が集中しサーバーが30分間ダウンするほどであった。この日一日の貸し出し数も全館で7000冊ほどと記録的に多くなった。いかに利用者の皆様が図書館の再開を待ち望んでいたかを象徴するような一日であった。なお、この時点ではまだ開館時間を17時までに限定した。

16日には三つの分室も再開した。

**7月**

1日に開館時間を通常どおりに戻した。中央図書館の参考室や各館の一部の閲覧席なども再開、新聞閲覧も再開したが、館内の滞在時間については館内の混雑を避けるため30分程度のまま制限をした。

一旦は一桁にまで落ちついた都内の一日の新規感染者数が7月に入り再び100人を超えるようになり、中旬には200人、下旬には300人を超えるようになってきた。いわゆる第2波を迎えることとなる。

例年7月は小・中学校が夏休みで図書館も子どもで賑わう時期であるが、今年は夏休みが8月からであり、7月の利用者数は大幅に落ち込んだ。

**8月**

8月になると市内小中学校も夏休みに入り、少しずつ利用が戻ってきた。8月の利用者数は前年度比でマイナス約10%ではあったが7月に比べるとかなり回復してきた。都内の感染者数は400人を超える日もあり、市内の感染者数も毎日のように増えていったが、下旬になると少しずつ落ち着いてきた。

24日からは、市内小・中学校の2学期が開始され、館内から子どもの姿が減っていく。

**9月**

大学などが後期授業を開始する。前期はリモート授業のところが多かったようだが、後期は対面授業との併用も増えてきたようだ。中央図書館では公衆無線LANが利用できるようになっていることもあり、学生がPCやタブレットを持ちこんでいる姿が増えていたが、そういう背景が影響していると思われる。閲覧席に飛沫防止の板を設置して、少しずつ席数を回復させていく。

29日には、試行でおはなし会を開催。フェイスシールドやマスクをつけ、十分に換気を行い、人数も制限して距離を取って視聴覚室で行った。事前広報を行わなかったこともあり、参加者は幼稚園のお子さん2名だけであったが、今後の取組に向けてイメージを持つことができた。展示などの企画については、ほぼ例年並み開催に回復することができたが、人を集めて行う企画については、感染対策を行えば行うほど、開催のハードルは高くなる。

**10月**

全世界では死者が100万人を超えて感染が再び拡大している国も増えているが、国内は小康状態で、国の旅行費最大半額補助の「Go To Travel」で当初除外されていた東京都内発着が対象になった。

13日には、館内利用時間を30分としていたものをおおむね60分以内に緩和するとともに、中央図書館2階の読書室の座席を半分にしたうえで再開をした。利用者も回復してきており、土日には閲覧席がかなり埋まる状況となって来た。

\*\*\*

今後について

新型コロナウイルスの影響により、生活様式が大幅に変わり、今までと同じような図書館運営ができない状況となっています。だからと言って、感染症のリスクがあるから何もできない、やらないということではなく、この状況の中でどういうことならできるかを考え、事業を進展させなくてはならないと考えます。

一方で、来年度以降、税収の大幅な減少が見込まれ、全国の図書館はかつてないほどの大きな財源不足となることが予想されます。今までにない工夫やアイデアを元に新しい図書館像を切り拓いていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

～「読書サークル・小平」案内～

## 「???'の読書会」 その実施と工夫

進行担当 大森輝久

当会は、2009年10月18日(日)に発足し、次回第58回(2020年11月29日)で11年目を迎えます。

はじめた当時は読書会の進め方について具体的に書いた本は見当たりませんでした。あっても実施したことがないと思える優等生本で説教じみでいて、実行するにはさっぱり分かりませんでした。当会は「隔月に1回ぐらい集まって本の話をするのもいいのではないか」との軽い考えで始めました。毎月だとキツイか。

それでもいろいろと工夫をしました。何事にも「準備がことの成否を決めます」。「読む本の選び方」から「進行の工夫」までを紹介します。

\*\*\*

### 1. 次回テキストの「候補リスト」を準備する

参加しやすい本(読みやすい本、関心の湧きやすい本、主に新書・文庫)を中心に10冊程度の候補本を準備し、例会当日には参加者からの推薦も募り例会の最後に「次回テキスト」を決めます。

#### — 準備で留意していること —

- ① 入手しやすい、経済的負担も少ない「新書」  
これだと数時間で読め、時間的負担も少ないです。テキストとしては限界があるかも知れませんが、本を読むより、考え、発言(表現)することに比重を置いています。
- ② よく読まれている本、よく売れている本  
大手書店の「オススメ本」をチェックしています。
- ③ 新聞・雑誌の書評を参考にします  
「朝日新聞」書評欄の「売れている本」(10万冊程度の販売実績?)は大衆向け読書会に役に立ちます。
- ④ 新書となると社会問題に傾きがちとなりやすいので、文学や歴史等の人文科学や自然科学の本など年間でのバランスを考えます  
ただし、小説は除外させてもらっています。読書＝「小説を読む」というイメージを脱却したいのです。  
イギリスの図書館ではフィクション(小説等)の購入は何%までと規制したりしています。
- ⑤ 出版社に注意しています  
用心しなければいけない出版物が出てきています。ぶっそうな時代です。

### ⑥ 著者に留意しています

過去の実績を調べたりします。失敗もあります。日本再建シンポジウム著『現代日本の地政学』(中公新書 2017.8)は、何回もアレは失敗だったと言われています。辛いです。学者のシンポジウムですが、ダメでした。著者性(責任の所在)が低いからでしょうか。新書はだんだん編集が安直になってきている気がします。発行ノルマが多すぎる。

### ⑦ 「中央公論」誌の「新書大賞」で取り上げられるぐらいの本を目指しています

毎年3月号で発表されます。打率は3割ぐらい?

### ⑧ 次の世界を考える本を選んでいきます

馬齢を重ねると次世代のことを考えるのが仕事です。若い人の参加を期待しています。

### 2. 読む本(テキスト)の採択方法

進行担当者が準備したリストと参加者からの推薦本を対象に参加者全員で採択します。進行担当者は採択に加わりません。民主的に見えて誘導は良くないからです。次回テキストの推薦は、参加同志での「本の相互紹介」にもなっています。

### 3. 読書会の入口づくり

#### ① 読書会に入りやすいようにイントロ(口上)を考えます。イントロに成功すれば流れができます。次回は「日本学術会議の任命拒否」問題ないし映画「博士と狂人」(OEDの編集)をイントロにする予定です。

#### ② 参考のために一例として「読む、考えるポイント」を提示します。あくまで一例です。

#### ③ 目次を紹介します。あらかじめ読んできているのを前提にしているので(必要条件ではありませんが)、目次を紹介すると記憶が蘇えることを期待しています。

読んだって日時がたてば忘れますからね。

#### ④ 著者紹介で周辺の本もサポートします。

著作歴、どのようなことをテーマとしてきた著者であるかは参考になります。レジメに記録します。

### 4. レジメ作成

イントロまで出来れば、4ページもののレジメをつくります。記録および記憶のためです。

・レジメ3ページ目でテキストのテーマを補充する

データなどを紹介するようにしています。うまく行くとは限りません。根拠となるデータおよび別の見方を提示しようとしているのです。

・多くの本が出ている情報「本の森」の紹介  
レジメ4ページ目は前回から今回までの出版界の状況報告です。これも含め毎回40～50冊は紹介しています。年間で200冊ぐらひは紹介しているでしょうか。本は1冊で存在するのではなく「本の森」の中で存在するということを感じてもらおうという試みです。次の6項目からなっています。

- ①「注目すべき本の企画」および「本に関する展覧会、展覧会図録」の紹介。次回は、慶應大学図書館が毎年丸善丸の内店で開催している展覧会の紹介。今年度の展示は「古代・中世日本人の読書」展。それと、丸善創業150周年記念稀覯書展「西洋の名著との出会い」展（昨年10月開催）と展示図録の紹介。
- ②「周回（ナントカ何周年など）」。今年は『日本書記』編纂（720年）から1300年とかコンドル（建築家）没後100年（ジュンク堂書店池袋で関連書展）など。近くでは、ノエル・ヌエット没後50年でガス・ミュージアムで展示があったことなど。
- ③「表現者の死去」の情報。すぐれた本を書いた人などが逝去しもう新作は読めない。合掌情報です。  
・・・②③情報は図書館の展示で使える情報です。
- ④「マンガ・漫画・コミック・コミックス」の情報  
小平市立図書館がマンガを購入しないと決めているとのことだったので、優れたマンガが多いのに残念との思い、多くの優れたマンガ情報を知るために開設。コミックスは除外しています。
- ⑤雑誌の特集や雑誌論文の紹介  
雑誌の特集や優れた論文での読書会も考えていますが論文をフォローできていません。論文が出て3～5年でやっと本となります？ 遅い。その点、新書は殆んど書き下ろしですから「長めの論文」と思えなくはないか。それにしても新聞等で、雑誌論文の紹介が少ないです。「本を読む」から「論文を読む」へ。これが読書の流れとなるべきかな。レジメは以上ですが、レジメを見るとテキストが「本の森」の中の1冊となってよく理解できる気がします。

以上が準備です。当日の進行はその余技？

— 進行は、「？の発見」と「ポケとツッコミ」 —

発言では「良かったところ」「疑問に思ったところ」を中心をお願いしています。注意すべきは、安易に納得されやすい常套句で考えをまとめることです。「それは何故ですか」「ほんまでっか？」などポケつつツッコミながら進行します。ただし追及はしません。次の発言に導くツッコミです。

発足当初はなかなか発言がありませんでしたが、今は時間が足りなくなるくらいになっています。席順で指名していたのですが時間が足りなく自由発言に変えたらまた時間が足りなく、時間制限をしたりしています。進行担当者のツッコミが時間をくったりで進行の正解は出ていません。

多様な読書をしてきた人から多様な意見や別の本の紹介を聴けるのが楽しみです。こういう考え方をすべきなのかとか自分の考えはまだ稚拙だと考えさせられる読書会へと成長しました。テキストも1冊で収まらず関連本としてサブ・テキストを追加するまでに至っています。このような機会を与えてくれた「小平図書館友の会」に感謝しています。

持って帰るべき？を発見できれば成功でしょうか。次回は「コロナ後の世界を碩学に聴く」です。次の世界の在り方を考えつつ乗り切りましょうか。

第58回 読書サークル・小平  
2020年11月 開催案内

2020年11月29日（日）14:00～16:00頃  
会場：小平市中央公民館 地下 和室けやき  
小平市小川町2-1325

友の会会員以外の方も、お気軽にご参加ください。あらたに参加される方は図書館友の会事務局（表紙の連絡先）までご連絡ください。

<テキスト（課題本）>

『コロナ後の世界』大野 和基【編】文春新書  
2020/7/20

<サブテキスト>

『コロナ後の世界を語る 現代の知性たちの視線』  
朝日新書 2020/8/11



## 学 習 会 報 告

「声に出して本を読む会」「図書館について学ぶ会・ハンディキャップサービス学習会」は、コロナ禍のため休会、各自自習中です。

### Y A を 楽 し む 会

ティーンエイジャー向けの本を楽しむ会です。

課題本は大概フィクションの物語ですが、9月の『戦場の秘密図書館』は珍しくノンフィクションを取り上げました。シリア内戦下の町ダラヤ。政府軍による日常的な空爆が続き、食料・物資が絶たれ、毎日薄いスープ一杯で生き延びなくてはならない過酷な状況の中、国の復興を夢見る若者たちが、地下に秘密の図書館を作ろうと奮闘します。平和な国づくりに必要なことはあらゆる分野の本から学ぶことだと信じて。破壊された家の中に残された本を、命の危険に脅かされながら運び、いつか持ち主に返せるように、記録し整理分類して並べ、本の貸出、読書会、講演会なども開かれます。「本は雨のようなものじゃないかな。雨の降りそそぐ土地に草木が育つように、本を読めば人間の知恵は花開くのだから」創設メンバーであるバーシートの言葉が胸に残ります。世界の若者が、抱えている悩みや現実をどう乗り越えていくのか、本を通して知ることができ、メンバーの感想を聞くのがさらに楽しみな会です。

(杉本順子)

2019年11月から2020年10月までのテキスト

11月15日(金) 10月の課題本と併せて4冊

『羊の告解』いとう みく 静山社

『星を見あげたふたりの夏』シンシア・ロード

あかね書房 / 『南西の風やや強く』吉野万里子  
あすなろ書房 / 『さよなら、田中さん』鈴木るりか  
小学館

12月20日(金) 『ジグソーステーション』中澤晶子 汐文社 終了後、忘年会を開催

1月24日(金) 『ボグ・チャイルド』シヴォーン・ダウド ゴブリン書房 / 『本屋さんのダイアナ』  
柚木 麻子 新潮社

2月21日(金) 『その魔球に、まだ名はない』  
エレン・クレイジス あすなろ書房  
『かたづの!』 中島京子 集英社文庫

3月~5月

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

6月17日(金)

『国境まで10マイル コーラとアボカドの味がする九つの物語』 デイヴィッド・ライス 福音館

『凍てつく海のむこうに』 ルータ・セペティス  
岩波書店

7月17日(金)

『たゆたえども沈まず』 原田マハ 幻冬舎

『烏に単は似合わない』 阿部智里 文芸春秋

8月 DVD鑑賞 中止

9月25日(金)

『ほんとうの願いがかなうとき』 バーバラ・オコーナー 偕成社

『戦場の秘密図書館』 マイク・トムソン 文溪堂

10月23日(金)

『八月の光』 朽木 祥作 小学館

『愛のうたをききたくて』 サラ・デッセン作 おびか ゆうこ訳 徳間書店

## 図 書 館 協 議 会 報 告

(2019年11月~2020年9月開催分)

小平市図書館の図書館協議会は1年に6回、奇数月に開催されています。しかし、表題に付しました期間については、コロナ禍のため2020年5月開催の会が開けず、年間5回開催となりました。

事務局報告や協議会委員発言で特記すべき事項と私が感じた事項を列挙してみます。

◆「本の宅配サービス」の利用者要件緩和が第一でしょう。これで利用者が少しずつ増えてきたようです。

◆中央図書館の開架の一部に「多文化コーナー」が設置され、「英語でおはなし会」が開催されました。

◆2020年1月には「第4次小平市子ども読書活動推進計画(草案)」のパブリックコメントの結果が発表されました。協議会の場では学校図書館協力員の立場、司書の採用について議論になりました。

◆漫画の収集も長い間、協議会で議論となっていました。2020年7月の協議会で漫画を収集することに決めた旨の報告もありました。

図書館の閉館中に不便を感じた人は多かったと思います。再開後もすぐに元通りとはいかず、様々な制限がありました。コロナの行方は不透明です。緊急事態時の図書館の在り方も今後の課題のひとつでしょう。

(塚本健男)